

## 『太白区認知症を支える地域づくり事業』について

<p>事業概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>区民協働まちづくり事業</u>として平成 26 年度より継続事業として開催。</li> <li>・ 高齢者・障害者が地域の中で健やかに暮らし続けることが出来る様に、認知症をテーマに地域での支えあいの大切さを理解するための講座や介護劇を実施し、地域の中で高齢者・障害者を支える環境づくりを目指す。</li> <li>・ 地域包括支援センターと連携し、太白区高齢者障害者地域会議の議論も踏まえ、地域団体の関係者等へ積極的な働きかけを行う。</li> <li>・ 区内 1 2 包括を 4 ブロック (3 包括) に分け、1 年 1 ブロック毎に新規開催し、4 年で区内を一巡する。</li> <li>・ 対象者：民生委員児童委員、町内会役員、老人クラブ役員、圏域内事業所他。</li> <li>・ 会場：地域の市民センター等の協力を得て開催。</li> </ul>
<p>実施状況</p>	<p>別紙報告書のとおり</p>
<p>平成 26 年度</p>	<p>長町地区【長町・郡山・富沢包括圏域】 予算 25 万円(講師謝礼・印刷費他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合同：医師講話・介護劇・家族メッセージ・成年後見制度等。</li> <li>・ 包括毎：医師講話・寸劇、弁護士講話、薬剤師講話等。</li> </ul>
<p>平成 27 年度</p>	<p>中田地区【西中田・袋原・四郎丸包括圏域】 予算 10 万円(講師謝礼・紙代他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合同：医師講話・介護劇等</li> <li>・ 包括毎：南警察署員講話、認知症専門医療相談員講話、認知症家族会代表・認知症本人・家族の講話等。</li> </ul>
<p>平成 28 年度</p>	<p>八木山地区【愛宕橋・八木山・西多賀包括圏域】 予算 10 万円(講師謝礼・紙代他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合同：精神科医師講話他～以降の内容については、計画中。</li> </ul>
<p>平成 29 年度</p>	<p>山田地区【山田・茂庭・秋保包括圏域】 開催予定。(印刷費予算の追加を検討)</p>
<p>成果等</p>	<p><b>【実施後の参加者アンケートより】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症は特別な病気ではなく、誰もがなりうるものとわかり、認知症の見方が変わった。</li> <li>・ サポーターよりもパートナーを目指し、地域での生活を支えたい。</li> <li>・ 本人や家族の話を聴き、自分の立場に置き換えて考える事が出来た。</li> <li>・ 町内会の集まりで伝えたい。→町内会で勉強会を開催した。</li> <li>・ 活動団体がお互いの報告を聴き、顔の見える関係になった。</li> <li>・ 地域でもっと見守りの輪を広げようと思った。</li> </ul> <p>※26 年度、27 年度開催した地域では、講習会等継続した取組を実施している。</p>
<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域での認知症へ関心の高まりにどう応えていくか。</li> <li>・ 地域団体や関係者の中でも、認知症の理解や関心の程度に差があり、関心の低い方や若い世代への働きかけを意識していくことが必要。</li> <li>・ 他の事業（認知症初期集中支援事業・こころの相談事業・多職種連携会議・高齢者障害者地域会議等）とも繋げ総合的な地域づくりの実施。</li> </ul> <p>※区で考える課題を地域会議等で共有化し、具体的な事業に繋げること。</p>

# 平成26年度 太白区 区民協働まちづくり事業 認知症を支える地域づくり事業 報告書

## 【目的】

被災後の新たな環境のもとで、高齢者が健やかに暮らし続けられるように、認知症をテーマに地域での支え合いの大切さを理解するための事業を実施し、地域の中で高齢者を支える環境づくりを目指すこと。

## 【実施にあたって】

被災後3年を経過し、復興公営住宅の入居が進んでいる中、地域力向上を目指して、地域包括支援センターと連携し、認知症を切り口に地域団体の関係者等への積極的な働きかけを行う。

区を3~4ブロックに分け、平成26年度は、すでに復興公営住宅の入居が始まっている鹿野地区及びH27.3に入居が始まるあすと長町地区を含む長町、郡山、富沢の地域包括支援センターの担当圏域を1つのブロックとして、共同で開催するものである。

平成27年度以降も、残る2~3ブロックで開催し、高齢者がいつまでも安心して生活できる太白区を目指す。



## (共同開催)

【日 時】 平成26年11月26日(水)  
14:30~16:30

【場 所】 太白区役所 5階ホール

【テ ー マ】 認知症の方々が安心して  
生活できるまちを目指して

【内 容】

- ① 寸劇「仙台家の人々」  
～劇団ひなたぼっこ
- ② 講話「高齢者の心身の変化と  
地域での見守りについて」  
講師：医師 新井川 勝久先生
- ③ 認知症の介護を体験して～家族からのメッセージ  
仙台弁のうた～歌って踊ってストレッチ
- ④ 「備えて安心」～成年後見制度について

【対 象 者】 長町・郡山・富沢地域包括支援センター圏域の町内会役員、  
民生委員、老人クラブメンバー等

【参加人数】 63名・関係機関20名



【大雨の中、大勢の方にご参加頂きました】



【おばあちゃん役、名演技】

## (富沢地域) (第3回 富沢地区 地域包括ケアシステムに向けての勉強会)

【日 時】 平成27年1月21日(水)  
15:30~17:00

【場 所】 富沢市民センター2F 第1会議室

【テ ー マ】 認知症と地域の支えあいについて

【内 容】

- ① 「認知症の取り組み～その現状と課題～」  
講師：医師 新井川 勝久先生
  - ・ 認知症とはなにか
  - ・ 認知症の種類
  - ・ 認知症と似ているせん妄とうつ病性仮性認知症との区別
  - ・ 地域全体で認知症の人々を支える必要性
  - ・ 介護者へのアドバイス
- ② 寸劇 「認知症でも安心」  
～富さんの支えあい会議を開く～  
出演：トミー劇団(町内会関係者、民生委員、  
児童委員、介護サービス事業所職員、太  
白区役所障害高齢課、富沢包括職員)



【認知症について詳しくお話し頂きました】

【対 象 者】 富沢地域包括支援センター圏域の町内会役員及び関係者、民生委員児童委員、サービス事業所

【参加人数】 35名

## (郡山地域)

- 【日 時】** 平成27年2月2日(月)  
10:00~12:00
- 【場 所】** 太白区役所4階第2・第3  
会議室
- 【テ ー マ】** 「高齢者の権利擁護につ  
いて」



【会場が満席になるほど大勢の方々にご参加頂きました】

### 【内 容】

- ① 「認知症の基礎的な理解と地域包括支援センターの事業概要説明」

郡山地域包括支援センター 相談員

- ② 「任意後見制度、遺言、その他各種法制度について」

講師：仙台弁護士会 高齢者・障がい者の権利に関する委員会 弁護士 関野 純 先生

認知症になった場合に備えての成年後見制度利用について、事例を交えながら、任意後見制度や、隣接する諸制度等を解説して頂いた。権利擁護については、事前の準備が非常に有用とのこと。



【講話中の関野先生】

**【対 象 者】** 郡山地域包括支援センター圏域内及び隣接区域の民生委員児童委員、町内会役員、地域の事業所（不動産業、金融機関の従事者等）。

**【参加人数】** 56名・関係機関7名

## (長町地域)

- 【日 時】** 平成27年2月13日(金) 14:00~16:00
- 【場 所】** 太白区中央市民センター3F 大会議室
- 【テ ー マ】** 認知症の方々が安心して生活できるまちを目指して
- 【内 容】**

- ① 「認知症の方への薬の対応について」

講師：つばさ薬局 主任薬剤師 永井 瞳 氏

認知症の方に対して処方される薬について。

また、薬に関することで困っていることがある方は、まず薬局に相談することで、医師への連絡・確認、内服方法の変更や薬剤師訪問指導を行うことに繋がられ、本人の状態安定へ繋がることがある。事例を通してわかりやすく紹介された。

- ② 「地域包括ケアシステムについて」 包括職員および区職員より説明



【大変わかりやすくお話を頂きました】

**【対 象 者】** 長町地域包括支援センター圏域の町内会役員及び関係者、民生委員児童委員、サービス事業所

**【参加人数】** 52名

## 【実施しての効果・成果・参加者の反応など】



【講話中の新井川先生】

- 講話では「非常にわかりやすかった」「認知症について医師から話が聞けたのは大変ありがたかった」などの感想があった。薬剤師も在宅支援を行っていることを周知できた。
- 介護者のメッセージが好評で、住民同士をつないでいく役割が重要であることを再確認できた。



【ぶっつけ本番でしたが、皆さん名演技で、それぞれの役割がよく伝わりました。】

- 寸劇では、身近に起こりそうなケースについて個別ケア会議を紹介。今後、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することが出来るように、地域包括ケアシステムの構築が重要であり、

その為には、町内会、民生委員児童委員、薬局、医師、介護支援専門員、区役所等全員の協力が必要であることを周知出来た。

- 後日、研修参加者より、「認知症の母と精神障害の息子宅が競売にかけられているらしいが、このような場合にも後見人が必要になるのではないかと、早速相談が寄せられている。



【仙台弁のうたに合わせたストレッチも大好評】

### アンケートより

「地域での活動に生かしたい」

「本人・家族の立場にたった支援ができるようにしたい」

「自分自身で認知症にならないよう気をつけたい」

「いつまでも自分の意志で自分の処遇を決めたい」



【ストレッチでひとあせ流し、リフレッシュ】

支援者としての活動に生かすだけではなく、自分自身の問題として感じて下さる心強いご意見をたくさんいただきました。

認知症は、特別なものではなく、誰もがかかりうる疾患です。大人も子供も高齢者も、当事者だけでなく、地域住民みんなが当たり前のこととして、気軽に話すことができ、助け合える太白区を目指して、次年度も他の地区でこの事業を続けていきたいと考えております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

主催) 太白区障害高齢課

共催) 長町地域包括支援センター  
郡山地域包括支援センター  
富沢地域包括支援センター

印刷) 萩の郷福祉工場

作成) 平成27年3月

# 平成27年度 太白区 区民協働まちづくり事業

## 認知症を支える地域づくり事業 報告書

### 【目的】

高齢者が健やかに暮らし続けられるように、認知症をテーマに地域での支え合いの大切さを理解するための事業を実施し、地域の中で高齢者を支える環境づくりを目指すこと。

### 【実施にあたって】

地域力向上を目指して、地域包括支援センターと連携し、認知症を切り口に地域団体の関係者等への積極的な働きかけを行う。

区を4つのブロックに分け、平成26年度から実施している。平成27年度は西中田、袋原、四郎丸地域包括支援センター担当圏域で開催した。平成28年度以降も残る2ブロックで開催し、高齢者がいつまでも安心して生活できる太白区を目指す。



【西中田・袋原・四郎丸地域包括支援センター圏域図】

## (共同開催)

【日時】平成27年10月29日(木) 14:30~16:30

【場所】中田市民センター 第1・2研修室

【内容】

- ① 寸劇「渡辺家の人々」～俺たちなじょすっぺ劇団～
- ② 講話「認知症について～症状と対応について～」  
講師：菊地内科クリニック 院長 菊地 亮 先生
  - ・認知症の症状
  - ・老化現象と認知症の違い
  - ・認知症の種類と特徴
  - ・認知症の人への対応

【対象者】西中田・袋原・四郎丸地域包括支援センター圏域の  
町内会役員、民生委員、老人クラブメンバー等

【参加人数】57名・関係機関14名



## (西中田地域)



【日時】平成27年11月12日(木) 14:00~16:00

【場所】柳生市民センター 多目的ホール

【内容】「地域での特殊詐欺被害や防犯対策について」

講師：仙台南警察署生活安全課 生活安全係  
宮城県警部補 今野 健一 氏

- ・特殊詐欺の種類
- ・南警察署管内での特殊詐欺の実態
- ・被害の実例
- ・被害に合わないために
- ・SOSネットワークシステムについて

【対象者】西中田地域包括支援センター圏域の町内会関係者、  
社会福祉協議会、民生委員児童委員、老人クラブ会長、  
居宅支援事業所、介護サービス事業所

【参加人数】31名・関係機関8名



## (袋原地域)

【日時】 平成 28 年 1 月 18 日 (月) 14:00~15:30

【場所】 袋原コミュニティセンター ホール

【内容】 「ご本人の想いを大切にされた地域支援について」

講師： 認知症疾患医療センター

いずみの杜診療所

地域連携室 室長 川井 丈弘 氏

- ・ 認知症とは
- ・ 認知症の症状と種類
- ・ 認知症の「人」への関わり方
- ・ 自分が認知症になったら
- ・ 初期集中支援事業について
- ・ 病院との上手な関わり方

【対象者】 袋原地域包括支援センター圏域の町内会役員、民生委員児童委員、老人クラブメンバー、居宅支援事業所、サービス提供事業所。

【参加者数】 40 名・関係職員 7 名



## (四郎丸地域)

【日時】 平成 28 年 2 月 26 日 (金) 13:30~15:00

【場所】 東四郎丸コミュニティセンター 大・中会議室

【内容】 「認知症について正しく知ろう」

講師： 認知症の人と家族の会

宮城県支部代表 蘇武 徳典 氏

太白おれんじの会 柳沼 芳美 氏

おれんじドア会員 沼澤 正廣 氏

- ・ 認知症の人と家族の会や認知症カフェについて
- ・ 認知症の本人からの実体験
- ・ 認知症との付き合い方
- ・ 認知症の人を介護する家族の体験
- ・ 認知症になる前の心構え

【対象者】 四郎丸地域包括支援センター圏域の町内会役員、民生委員、老人クラブメンバー等

【参加人数】 32 名・関係職員 8 名



## 【実施しての効果・成果・参加者の反応など】



- ・参加者からは「認知症は特別な病気ではなく、誰もがなりうるものであることがわかった」「サポーターよりもパートナーを目指したい」等の感想があった。講話を通して、認知症への見方が変わったという声を多数いただいている。
- ・認知症のご本人や介護をしている家族からの話に対する関心が強く、好評だった。実体験を交えた具体的な内容だったので、「他人事ではない」「認知症の人にやさしい気持ちで接するよう心掛けていきたい」等、自分の立場に置き換えて考えられた参加者が多かった。

- ・講話で用いた特殊詐欺防止のDVDが好評で、「サロンで出前講座をしてほしい」という話があり、地域包括支援センターの出前講座依頼につながった。
- ・会の中で、地域内で活躍されている役員や事業所等の紹介を行ったことで、顔の見える関係を構築することができた。



## アンケートより

「本人や家族の気持ちをもっと大事にし、希望を持ったお手伝いが出来ればと思います。」

「認知症への偏見を取っ払っていくことが大切であるということがわかった。」

「地域でもっと見守りの輪を広げていこう。」

「誰でもなりうる認知症なので、地域で生活できるように支えていきたいと思います。」

参加者のみなさんから「パートナーとして、地域で認知症の方々を支えていこう」という、心強いご意見をたくさんいただきました。

認知症は、特別なものではなく、誰もがかかりうる疾患です。

大人も子供も高齢者も、当事者だけでなく、地域住民みんなが当たり前のこととして、気軽に話すことができ、助け合える太白区を目指して、次年度も他の地区でこの事業を続けていきたいと考えております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

共催) 太白区障害高齢課

西中田地域包括支援センター

袋原地域包括支援センター

四郎丸地域包括支援センター

作成) 平成 28 年 4 月